

## 「タミヤフェア」で自衛隊をPR



3台の自衛隊車両が大迫力



広報官の説明に聞き入る募集対象者と家族

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、11月18日（土）と19日（日）、ツインメッセ静岡（静岡市）で開催された「タミヤフェア2017」において、陸上自衛隊板妻駐屯地（御殿場市）第34普通科連隊と駒門駐屯地（同市）第1戦車大隊と協力して広報活動を実施した。

これは、「模型の世界首都・静岡」を代表する模型メーカー・株式会社タミヤが主催し、今年で19回目を迎えた大規模イベントであり、今年は2日間で2万4千人もの多くの来場者が県内外から訪れた。

広い館内にミニ四駆の走行コーナーや各種のRCカーコーナーなどが並び、自衛隊が展示した高機動車、軽装甲機動車、96式装輪装甲車といった模型にもなっている自衛隊車両は一際目を引き、多くの来場者が本物の迫力やスケールを体感していた。また、制服や迷彩服、防弾チョッキの試着体験や車両に乗っての写真撮影も行い、多くの家族連れや若者が楽しんでいった。

若者や保護者を対象とした自衛官採用制度説明コーナーでは、自衛隊に興味・関心のある多くの若者や保護者に対してこの職業の魅力ややりがい、募集制度について説明を行った。中には「水泳が得意なので、それを活かせる職種があるのか知りたい」といった質問もあり、広報官が海上自衛隊の潜水士について詳しく説明するとともに、水泳能力を活かして近代五種や水泳などでオリンピックを目指す道もあるなど、自衛隊の中でも選択肢は多岐にわたることを説明し職業について理解を深めてもらった。

静岡地本は、今後もこのような地域のイベントに積極的に参加し、自衛隊への興味や関心を高め、熱意のある若い志願者獲得に邁進していく。

## 教育隊卒業式、晴れて女性自衛官へ



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、11月23日（木）、陸上自衛隊朝霞駐屯地（東京都練馬区）で行われた女性自衛官教育隊の「第8期自衛官候補生課程卒業式」に参加した。

肌寒い雨が降る中、入隊式から誰一人欠けることなく仲間同士で協力し合い、厳しい訓練を乗り越えてきた24人の卒業式が挙行され、静岡地本から入隊した2人の自衛官候補生も晴れてこの日を迎えた。

卒業式は東部方面混成団長・瀬戸山昭臣一等陸佐を立会人とし、朝霞市長、各地本部長などを来賓に迎え、多くの家族が見守る中粛々と行われた。各来賓の祝辞に対し代表隊員は答辞の中で、入隊から卒業までの間数々の厳しい場面を乗り越えてきたからこそ得られたものや、教育に携わった教官への感謝の気持ちを熱く語っていた。

最後に教育隊歌を大きな声で歌い上げて卒業式は終了し、その後の会食では卒業生と参列した家族が和やかに会食をしながら懇談した。当初は入隊を心配していた家族も元気で成長した娘の制服姿を見て安心した様子で、教育期間中の訓練や地元にいる家族の話題で盛り上がりつつあった。

今回卒業を迎えた静岡県出身の2人の自衛官候補生は両名とも各種施設器材をもって戦闘部隊を支援する施設科への配属が決まり、12月から後期課程にそれぞれ進むことになっている。

静岡地本は、今後も入隊者へのアドバイスや家族に対するサポートを継続的に行ない、双方の架け橋として任務に邁進していく。